

交通アクセス [札幌駅から]

- 地下鉄東豊線「北13条東」駅1番出口より東へ徒歩3分
- 地下鉄南北線「北12条」駅2番出口より東へ徒歩15分
- 北口からタクシーで5分

[苗穂駅から]

- タクシーで8分、徒歩30分

[新千歳空港から]

- JRで札幌駅まで37分

[札幌丘珠空港から]

- バスで札幌駅まで25分



看護栄養学部 / 看護学科・栄養学科
 大学院 / 助産研究科 助産専攻(専門職学位課程)
 看護栄養学研究科 看護学専攻
 栄養管理学専攻

〒065-0013 北海道札幌市東区北13条東3丁目1-30
 TEL.011-741-1051(代)
 FAX.011-741-1077(代)



www.tenshi.ac.jp



天使大学大学院 助産研究科

Tenshi College Graduate School of Midwifery

2024



質・量ともに充実した実習。体系的に深く学べる講義。
日本で唯一の実践に強い助産師のための専門職大学院です。

助産研究科

助産専攻(専門職学位課程)

助産師を育成する助産基礎分野

助産教育者を育成する助産教育分野

天使大学大学院助産研究科は、カトリックの教育機関として「愛をとおして真理へ」を建学の理念とし、キリスト教の人間観、価値観および世界観に基づいて、専門職助産師を育成しています。

＜教育課程の特色＞

少人数制、院生と
教員による双方向教育

実践例に基づく教育

メンターシップ^{※1}と
プリセプターシップ^{※2}による教育

※1 メンターシップ: メンターとは「よき助産者」の意味。担当教員が数名の院生を入学から修了まで継続して受け持ち、深く関わることで院生の成長をサポートし、学習・生活に関する相談役を引き受けます。(担当: 専任教員)

※2 プリセプターシップ: プリセプターは、実習期間中に、実践の場で指導者として助産師の役割モデルとなり、実習中の院生が助産師として成長できるよう、主として臨床に関する相談を受け持ちます。(担当: 臨床指導者・実習指導教員・臨床専任教員・専任教員)

「助産師教育における将来ビジョン2021」 を充足する教育

ビジョン① 助産師学生の実習前／卒業前の能力を担保する

ビジョン② 助産学担当教員の教育力の向上／
保証、および臨床実習指導者の指導力の向上を図る

ビジョン③ 助産師教育の遂行や、助産学担当教員・臨床実習指導者の
研修開催に対し、危機管理体制を構築する

ビジョン④ すべての教育課程において、看護基礎教育に積み上げた
修業年限2年以上の助産師教育を推進する

日本助産評価機構



天使大学大学院助産研究科助産専攻
専門職大学院連絡認定
2019.4.1~2024.3.31

本学では、全国助産師教育協議会が策定した上記の「将来ビジョン」を満たすカリキュラムを開設以来編成しており、充実した実習で「理論」と「実践」をつなぐ教育を行っています。

また、助産専門職大学院として、助産領域の分野別認証評価「適合」を、2009年・2014年・2019年に日本助産評価機構から受けています。

専門職大学院とは

2003年度に創設された大学院制度です。「研究者の養成」に重点がおかれる従来の大学院とは異なり、専門職大学院では「高度で専門的な職業能力を持った実務家の養成」に特化した教育を行います。

天使大学では、わが国の母子保健水準に対応する高いレベルの助産実践に備え、助産教育は大学院で行うこととし、2004年に日本初の助産専門職大学院である助産研究科を開設しました。

専門職大学院の課程を修了すると授与される学位は専門職学位とされ、本研究科を修了すると「助産修士(専門職)」が授与されます。

＜教員の紹介＞ 教員名 主な担当科目

専任教員

研究科長

津田 万寿美教授
出産の文化
助産カウンセリング
母子保健行政・財政論
国際助産学Ⅰ・Ⅱ・実習

杉浦 恵子教授
助産女性学
助産哲学・倫理Ⅰ・Ⅱ
マタニティサイクル助産ケアⅠ

中田 かおり教授
助産学概論
助産師教育論
助産研究法
マタニティサイクル助産ケアⅠ
特別統合課題研究

杉田 樹美助教
妊産婦胎児乳児の栄養
マタニティサイクル助産ケアⅡ

臨床専任教員

高室 典子教授
独立助産実践概論
独立助産演習
マタニティサイクル独立助産実習

宮下 美代子教授
独立助産実践概論
マタニティサイクル独立助産実習

山本 詩子教授
助産薬理学Ⅰ
助産管理論Ⅱ
マタニティサイクル独立助産実習

片倉 裕子准教授
助産薬理学Ⅰ・Ⅱ
マタニティサイクル助産ケアⅡ
ハイリスク助産学Ⅰ・演習
子育て支援論Ⅰ・Ⅱ・演習

三浦 恵津子准教授
助産管理論Ⅰ
助産師教育方法論
健康教育論Ⅰ・Ⅱ
ハイリスク助産学Ⅱ
ウィメンズヘルスⅠ・Ⅱ・演習
マタニティサイクル助産ケアⅢ

長田 雅子講師
女性のフィジカルイグザミネーション
母子保健活動論(疫学・統計を含む)
性教育Ⅰ・Ⅱ・実習
マタニティサイクル助産ケアⅣ

兼任教員

田畑 邦治教授／学長
助産学概論

川口 雄一教授
助産研究法

小原 琢 准教授
助産哲学・倫理Ⅰ

峰岸 まや子 准教授
母子保健行政・財政論

目時 光紀 准教授
国際助産学実習

＜教育目標＞

1 女性に優しい自然出産を自律して医療機関や地域で実践するために、正常経過の診断およびケア、正常からの逸脱の判断およびケアができる能力の育成

2 科学的根拠の明らかにされている手段を、ケアの質の向上に応用する力の育成

3 助産管理並びに助産師教育の仕組みの理解、助産チーム及び多職種との連携・調整能力の育成

4 子育て支援について助産師の役割を明確化し、具体的な援助が行える。また、子育てに関わる他領域の専門家の役割を理解し、ネットワークづくりができる基礎的能力の育成

5 性と生殖に関する倫理をふまえ、思春期を中心とした性教育プログラムを開発し、性の健康相談ができる基礎的能力の育成

6 ライフステージ各期の女性のリプロダクティブ・ヘルスの増進を図るために、相談、教育、援助活動ができる基礎的能力の育成

7 地域母子保健活動を多職種と連携・協働しながら主体的に実践できる基本的能力、並びに政策化のプロセスを理解できる基礎的能力の育成

8 国内外の母子保健活動を理解し、国際的な視野をもって発展途上国での助産活動に貢献する基礎的能力の育成

9 助産教育分野

優れた助産師を育成するために、教育機関ならびに臨床現場において、助産師を目指す学習者に対して、以下の項目について基本的理解を醸成させ、教育・指導できる能力の育成

- 【1】 助産・看護における教育課程の編成・実施に関する計画の立案
- 【2】 教授・学習の理論を踏まえた教授学修法の展開
- 【3】 評価理論を踏まえた学習目標の達成の評価
- 【4】 教育機関の運営・評価についての基本的理解
- 【5】 理論に基づく学習を実践に向けて統合できる教育・指導
- 【6】 変動する社会のニーズに合わせた教育変革の推進

＜メッセージ＞

助産師の仕事は

「女性の傍らにあって、生命を育み守ること」。
この職を強い決意で選んだ方々に
集まっていたきたいと願っています。



助産研究科長
津田 万寿美

高度専門職助産師の働く場は多様です。助産師には出産のみではなく、実際にはもっと深く広い役割が求められています。妊娠・出産・産褥期の女性や新生児のケアはもとより、思春期から中高年期にわたる女性のライフステージ全般の性と生殖、不妊や遺伝に関する健康教育・相談、カウンセリングなど、広い役割が期待されています。女性の多様な価値観を尊重し、それぞれの女性にとって「最良で快適な出産方法」を選択するため

に必要な情報を提供することもまた、重要な仕事となっています。修了生は計378名。助産所の開業や勤務などの自律した助産活動、さらに発展途上国での活動など、多様な活動を展開しています。また、医療機関とその中の助産師外来や院内助産所など助産師が中心となり妊産褥期のケアを担う場でも活躍しています。

「助産教育分野」では、旧来の1年課程にはなかった、1年6カ月課程の中で体系化された“助産学”を、日常のさまざまな助産ケアの中の理論・根拠を含めてあらためて学び直します。その上で、教育者・指導者にとっての対象者である学生や新人などの“対象理解”の上に、個々の学生を教授する教育の諸理論を学びます。

助産教育分野の修了生の4割が大学院・大学などの教育機関で、4割が臨床現場で後輩助産師の育成にあたり、2割が管理職として、理論に基づいた質の高い助産ケアを教え伝える役割を果たしています。



〈修業年限〉2年
 〈学位〉助産修士(専門職)
 〈入学定員〉30名
 〈取得資格〉助産師国家試験受験資格
 〈修了に要する単位〉57単位

助産基礎分野

生まれるいのちを支える仕事。女性の生涯に寄り添う仕事

助産師の資格を取得すること、および助産の専門職業人に必要な、高度な助産実践の能力を修得するコースです。看護師の資格を持つ方(または取得見込みの方)が対象です。

5つの特長

1 助産所を含む、計20単位の実習

2年間で「20単位」の学外実習が用意されています。1年次の病院実習では専任教員に加え、実習指導教員を実習の場に配置。実習施設ごとに複数の教員が(必要時には)24時間体制でサポートし、実習時の宿泊費の補助なども行っています。

保健師助産師看護師学校養成所指定規則(以下、指定規則)で「11単位」の「助産学実習」を、助産研究科では「20単位」で履修します。出産期(分娩介助)だけではなく、妊婦に対する妊婦健康診査、保健相談の妊娠期ケア、産褥新生児ケアについても、質・量ともに充実した実習を行うことができます。

実習の取り扱い事例数

内容	2022年度修了生平均
保健指導	9例
妊婦健診	20例
出産期ケア	10例
産褥・新生児期の母子ケア	12例

2 助産師教育の世界基準(18ヵ月以上)を満たした、実践能力の育成を重視した2年の教育課程

国際助産師連盟(ICM)は、2011年の南アフリカ大会において、「助産師教育の世界基準」として看護教育修了後の助産師基礎教育の期間を「18ヵ月以上」とし、「実践能力」を重視することを採

択しました。助産研究科の修業年限は「2年間(24ヵ月)」。また、専門職大学院として「実践能力を重視」したカリキュラムを組み、この世界基準を十分満たしていると言えます。

3 2年課程にしかできない、助産を深く丁寧に学ぶということ

指定規則では「31単位」を修得すれば助産師国家試験の受験資格が得られますが、助産研究科はその「約2倍」の「57単位」を修了要件としています。単位数が多い理由は、従来「助産学概論」に一括されている「倫理・国際・教育」といったテーマを「助産

哲学・倫理」「国際助産学」「助産師教育論」としてそれぞれ深く学ぶためです。1年間の助産師教育課程では少ない時間で行っている内容を、助産研究科では丁寧に深く学修します。

4 先輩、院生にいつでも相談できる教育環境

助産研究科は、日本で唯一の「助産師養成のための専門職大学院」であると同時に、日本で唯一の「助産教育者のための養成機関」でもあります。「助産基礎分野」には、全国各地から助産師のエキスパートを目指す学生が集まり、「助産教育分野」には病院などの第一線で活躍してきた助産師が入学します。「助産基礎分野」の院

生にとってそんな経験豊富な助産教育分野の院生は、「助産の現場」のことをいつでも聞くことができる存在であり、他にはない魅力です。また、2年課程である本研究科は、1年次の時は「先輩」がいて、実習や学習方法について気軽に相談できるのも心強いところ。

5 関心の強い分野に、一歩踏み出す

女性の生涯を通じた性と生殖の健康支援の担い手としての助産師の役割を学ぶため、2年次に「発展・展開科目」があり、学生は

「子育て支援」「性教育」「ウィメンズヘルス」「国際助産」の4つのテーマから選択履修します。

〈カリキュラム〉



※■印は選択科目

〈年次教育計画(2023年度予定)〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	入学式・オリエンテーション	学内学習	学内学習	学内学習	学内学習	学内学習	学内学習	学内学習	学内学習	学内学習	学内学習	学内学習
			マタニティサイクル 助産ケア基礎実習 (6単位)		補講・試験期間	夏期休業			マタニティサイクル 助産ケア統合実習I (6単位)	冬期休業	学内学習	補講・試験期間
									学内学習		マタニティサイクル 助産ケア統合実習I (6単位)	春期休業
2年次		学内学習	学内学習	学内学習	学内学習	学内学習	学内学習	学内学習	学内学習	学内学習	学内学習	学内学習
		マタニティサイクル 独立助産実習 (6単位)	学内学習	学内学習	学内学習	学内学習	学内学習	学内学習	学内学習	学内学習	学内学習	学内学習
		ハイリスク 助産演習・健康教育論II	ハイリスク 助産演習・健康教育論II	ハイリスク 助産演習・健康教育論II	補講・試験期間	夏期休業			学内学習(発展・展開科目)	冬期休業	学内学習(発展・展開科目)	国家試験
		ハイリスク 助産演習・健康教育論II	マタニティサイクル 独立助産実習 (6単位)	マタニティサイクル 独立助産実習 (6単位)					マタニティサイクル 助産ケア統合実習II(2単位)			修了式

実習科目

専門職大学院ならではの充実した実習内容。
豊富な臨床経験と、それをフィードバックする学びの場が自律した助産師を育てます。

1年次
前期
(6単位)マタニティサイクル助産ケア
基礎実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

基礎実習で、助産の基礎をしっかり身に付けます。

妊娠期、出産期、産褥・新生児期に分けて実習を行います。対象をよく理解した上で、それぞれの期に応じて必要な情報を提供する「保健相談」を計画、実施します。また、分娩介助や褥婦と新生児のケアを行い、助産における知識と技術の基本を学びます。

学内カンファレンスを行い、学びを深めます。

妊産褥婦のケアを立案し、実践する傍ら、学内カンファレンスを行います。それぞれの事例を持ちよって知識や体験を共有し、ディスカッションしながら学びを深めます。

1年次
後期
(6単位)マタニティサイクル助産ケア
統合実習Ⅰ

後期の実習で、基礎実習で学んだ知識と技術をさらに深めます。

基礎実習で各期に分けて実習した内容について、統合実習では、出産期、産褥／新生児期における複数の対象者を継続して受け持つことで、基礎実習で学んだ助産の知識と技術を統合し、さらに家族を含めた対象理解から助産ケアの学びを深めます。

継続実習で一事例を継続的・総合的に理解し、助産ケアを実践する能力を養います。

統合実習では、妊娠から出産、入院中の産褥・新生児ケア、家庭訪問、産後1カ月までの継続実習も行います。対象を継続的・総合的に理解し、助産ケアを実践する能力を養うとともに、助産師の役割や専門職業人としての倫理観について統合的に学びます。

2年次
前期
(6単位)マタニティサイクル
独立助産実習

開業助産所で「自然なお産」を学びます。

助産所の助産師の持つ卓越した助産技術をはじめ、妊婦さんと深く関わりながら「自然なお産」について実践的に学びます。妊娠から出産、産褥までを連続したプロセスとしてとらえ、身体の内力や個性を大切に助産ケアを学ぶ実習です。

6週間泊まり込むことで
「助産所のリアル」が見えてきます。

的確な判断力やリスクマネジメント（緊急時の医療との連携など）、優れた観察力が必要となる助産所での仕事を間近で見て、助産師の独立性、自律性、専門職としての倫理的責任などについて考察します。開業助産所の管理・運営・経営、さらに地域貢献にいたるまで、総合的に学びます。

2年次
後期
(2単位)マタニティサイクル助産ケア
統合実習Ⅱ

母子の「複数受け持ち」で、これまでの学びを統合します。

1対1だったこれまでの実習とは違い、一度に複数の母子を受け持ちます。それにより生じる複雑な状況下において、優先順位を考えながら個別性に即した適切な助産ケアをする能力を養います。これまで学んできたことのすべてを統合しながら自ら判断し、実践する最後の実習です。

臨床現場における自分の役割を考えます。

助産チームのリーダーに付いてチーム内の業務を円滑に進める「リーダー役割」を学ぶ一方、チームの「メンバー役割」についても考えます。また、カンファレンスなどの連絡業務、記録の大切さを理解し、職業人となる前に自らの課題を明らかにします。

発展・展開科目

女性を知り、母を知り、いのちを知る。
助産師という仕事の奥深さに触れる学びの場です。2年次に4つのテーマから1つを選択します。

子育て支援

子育ての実際を見て、助産師にできることを考える。
妊娠から関わった母子を継続的に支援します。

1年次に妊娠から産後1カ月まで関わった母子を10カ月経ってから訪ね、実際に子育てをしてみて感じた悩みや喜びについて話を聞き、助産師の子育て支援における役割について考察します。妊娠中から子育て期間まで継続して関われるのは、2年間のカリキュラムならではの。長期間にわたってより深く相手を理解することで、出産後の継続した支援が効果的に行えます。また、子育て支援センターの活動に参加し、行政や多職種との連携についても学びます。



性教育

中高生への性教育授業を自分たちで企画する。
「教える」ことを学ぶ中から、たくさんの発見があります。

中学生、高校生、それぞれの年齢に合わせて内容をコーディネートしながら、自分たちで企画・立案した性教育授業を行います。思春期の特徴的な考え方や行動、価値観を理解した上でニーズに合った情報を「ピアカウンセリング（同じ立場の者同士のカウンセリング）」の手法を用いて提供します。助産師としてのいのちと性に対する問題にどう関わっていくかを、授業づくりを通して考えを深めます。



ウィメンズヘルス

現代女性が直面しているさまざまな問題。
その性と心の事象について幅広く学びます。

出生前診断や不妊治療、ドメスティック・バイオレンス、思春期や更年期特有のメンタルヘルス。女性が生涯で直面するさまざまな性と心の問題について、幅広く学びながら理解を深めます。更年期や思春期の治療を行う外来での関わりを学ぶ機会があります。また、産後のセルフケアの重要性をエクササイズを体験しながら学びます。それぞれの問題を身近なこととしてとらえ、助産ケアについて考える科目です。



国際助産

海外での助産の現状や
母子保健活動について学びます。

開発途上国をはじめ海外の母子保健活動の状況や国際機関の関わり、日本の国際援助など海外のお産や健康問題について学びます。またその一環として2018年度は、マダガスカルのアベマリア産院で実習を行い、2019年度はベトナム・ハノイで、現地で行われている母子ケアについて理解することで、その特殊性や日本との違いについて考察しました。



実習施設(2023・2022年度)

病院	助産所	その他
<ul style="list-style-type: none"> ● 天使病院(札幌市) ● 札幌東豊病院(札幌市) ● 札幌白石産科婦人科病院(札幌市) ● 市立札幌病院(札幌市) ● 手稲溪仁会病院(札幌市) ● 札幌マタニティ・ウィメンズホスピタル(札幌市) ● 産科・婦人科札幌みらいクリニック(札幌市) 	<ul style="list-style-type: none"> ● マミーズクリニックちとせ(千歳市) ● 市立千歳市民病院(千歳市) ● 帯広協会病院(帯広市) ● 日鋼記念病院(室蘭市) ● 釧路赤十字病院(釧路市) ● 中村記念愛成病院(北見市) ● 村岡産科婦人科医院(福島県いわき市) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 助産院エ・ク・ポ(札幌市) ● みやした助産院(神奈川県) ● 山本助産院(神奈川県) ● 助産院さくらパース(神奈川県) ● とわ助産院(神奈川県) ● パースあおば(神奈川県) ● めぐみ助産院(神奈川県) ● いなだ助産院(神奈川県) ● お茶畑助産院(静岡県) ● 桃太郎助産院(静岡県)
		<ul style="list-style-type: none"> ● 札幌市子育て支援総合センター(札幌市) ● 北広島市保健センター(北広島市) ● 恵庭市保健センター(恵庭市) ● 千歳市保健センター(千歳市) ● 岩見沢市保健センター(岩見沢市) ● 母子衛生研究会(札幌市) ● 北星学園女子中学高等学校(札幌市)

修了生インタビュー

各地で活躍する修了生が
“天使だからこそ学べたこと”を語ってくれました。



一人ひとりの対象者に丁寧に関わること。
助産師は黒子であり、主役はお母さん自身であること。
その学びが、現在に役立っていると感じます。

札幌東豊病院 勤務(助産師) 助産研究科 助産基礎分野 2012年3月修了

中学生の頃、助産師という職業をテレビ番組で知り、目指そうと決めたのは大学の看護学科で母性看護学の実習に行った時でした。天使大学助産研究科に進学したのは、助産の基礎的な学習を始め、発展・展開科目や助産院実習など、幅広く学べるからです。

大学院2年間で一番印象に残っているのは、やはり6週間の助産院実習です。助産院での実習が、こんなに長期に組まれているのは、他校にはない特徴ではないでしょうか。この実習では、妊娠中から産後までの長期間、1人のお母さんに丁寧に関わることの大切さを学ぶことができました。現在勤務している病院では、一度に複数の妊産婦さんを受け持ちますので、助産院のように1人の妊産婦さんにつきっきりというわけにはいかず、ジレンマを感じることもあります。病院では、勤務交替などで妊産婦さんの受け持ちが変わるため、チームでケアを考え実践していくという難しさも感じています。

入職して4年間で150人以上の赤ちゃんを取り上げましたが、やはり新人の頃のお産が印象に残っています。私自身も、お母さんとお話するだけで緊張している毎日でした。それでも、産後のお母さんから「一

生懸命に関わってくれたことがすごくうれしかった」というお手紙をいただいた時は、とても感動しました。今思い出しても、初心を忘れてはいけないと思います。現在は、切迫流産や妊娠合併症妊婦のケア、分娩介助、褥婦や新生児のケア、婦人科手術患者のケア、一般新生児や入院対象の新生児のケアも担当するようになりました。担当していたお母さんが元気な赤ちゃんを産み、かわいがる姿や、授乳に苦労していた母子が自立していく姿を見ると、この仕事のやりがいを感じます。

助産研究科で学んだ、助産師は黒子で、裏方であるという教えはとても役立っています。赤ちゃんを取り上げるのは、助産師だと思われがちですが、頑張るのはお母さん自身であることを忘れてはいけません。それまで、赤ちゃんに触れた経験もないお母さんが、「自分自身がお産をするのだ」という気持ちになって、頑張ろうと思えることが大切です。私は、お母さん方がそのように思えるように、関わっていききたいと思います。

また、当院では近年、無痛分娩を希望される方が増えていますので、無痛分娩のためのケアをたくさん学んでいきたいと思います。



一人ひとりのお母さんの子育て観に寄り添いながら、
母乳ケア・育児相談を行う助産院を姉妹で開業。
助産院実習や独立助産演習での学びが生きています。

ママケアハウスイコロ助産院 勤務(開業助産師) 助産研究科 助産基礎分野 2013年3月修了

助産研究科に進学した理由は、大学時代の母性看護学実習がとても楽しくて、そこで働く助産師さんの姿や、先に天使大学助産研究科で学んでいた姉を見て「私もなりたい」と思ったからです。

実際に助産師になってみると、学んで良かったと思えることばかりです。特に6週間の泊まりこみの助産院実習が印象深く、自宅出産の方を受け持ち、ご家族が見守る中で分娩介助をさせていただきました。「生活の一部にお産がある」と実感できた分娩でした。先生の助産技術を身近で学んだ経験は、開業を目指す大きなきっかけになったと思います。

他の実習も期間が長く、記録も苦労しましたが、一例一例、先生と深く振り返りながら実習を重ねることで、辛い時も乗り越えることができました。先生方から学んだ母子に対する姿勢や言葉かけ、関わり方などは、今も自分の中で血となり肉となり生きていくと感じます。

助産研究科の2年間で、助産師とは妊産婦だけに关わるのではなく、幼少期から老年期までの女性のライフステージ全般をケアする存在だとわかりました。発展・展開科目の「子育て支援」では、地域での助産師の役割を学び、お母さん方に退院後の生活や悩みについてインタビューも行いました。この実習も、将来は地域の助産院で産後ケアをしたい

という目標につながったと思います。

修了後は4年間の病院勤務や助産院での研修を経て、5年前に姉と助産院を開院しました。ふたりとも力を入れて勉強してきた母乳育児・乳房ケアと産後ケアが中心の助産院で、自分達で古民家をリフォームしました。イコロ(アイヌ語で宝の意味)という名前には、赤ちゃんは宝物というだけではなく、育児期間を宝物のような期間にしてほしいという願いもこめています。市の産後ケア事業として新生児訪問や育児支援を行ったり、ショッピングセンターで育児相談を行ったりもしています。助産研究科では独立開業を目指すための講義も多かったのですが、在学当時に立てた事業計画を見直す時もあり、改めてがんばろうと思ったりします。

当院には、「赤ちゃんがおっぱいを吸ってくれないから授乳の練習をしたい」「体重があまり増えず、発達が遅いようだから見てほしい」といった不安や悩みを抱えたお母さん達が来院されます。私達のサポートによって、母乳育児が軌道に乗ったり、理想の状況に近づいたり、親としての自信を付けていく姿を見たりすると、助産師としてのやりがいを感じます。産後のお母さんを孤独にせず、みなさんが気軽に利用できる環境を整え、お話をよく聞いてベストを尽くすことが、私の今のモットーです。



教わった一つの言葉や
基本のすべてを日々思い出し、役立てています。
一度退職しても進学を選び、助産師になれて本当に幸せです。

市立千歳市民病院 勤務(助産師) 助産研究科 助産基礎分野 2016年3月修了

元々助産師に興味はありましたが、内科・呼吸器科の看護師として3年間勤務して経験を積むうちに、隣が産科病棟だったことや先輩の助産師学校進学に刺激を受け、やはり助産師になりたいと思い、助産研究科で学びました。

修了後は同じ病院に復帰し、助産師として働いて7年目となります。その間に二人の子どもを出産し、2回の育児休暇をはさんでいるため、私はまだまだ経験が足りません。まずは仕事と育児の両立をがんばり、いずれは助産師外来も担当できるようになることが当面の目標です。

助産研究科での学びで特に思い出深いのは、助産院実習です。そこで学んだ乳房ケアは宝物です。先生のマッサージを受けるとみなさんの授乳が順調に経過していくのが今でも不思議で、到底そのレベルには及びませんが、教わった乳房マッサージや先方を予測しながらケアをする大切さを忘れず、日々励んでいます。また、他の多くの病院実習でも先生方は常にそばにいてくださり、空き時間にも必要な知識や技術を教えていただきました。テレビ出演や著作の出版をされているような第一線の先生方から学べることも、助産研究科の大きな魅力と特徴だと思います。教わった言葉や実践に使える基本の一つひとつが日々思い出され、ありがたく感じています。その時はあまり実感できなかったことも、働いていると

「これ、先生が教えてくれたな」と明瞭に思い出されるのです。母親教室や性教育の科目では実際の妊婦さん、高校生の前に立ち、講演をしました。母親学級など人前で話す機会があるので、院生のうちに経験することができて良かったと感じます。

助産師の私でも母乳で悩んだりしたので、お母さん達ももっと不安だろかなとわかるなど、自分の出産をおしても多くの学びがありました。妊娠中のワクワク感、出産の緊張感や不安感を実際に味わい、やはり産むというのは大変なことだと体感できました。そういった共感を生かしながらも、自分の意見ではなくお母さんの気持ちを常に大事にしていきたいと思っています。

助産師は母子の命を預かるという点で、責任の重い仕事ですが、生命の誕生に立ち会えるすばらしい職業だと思います。赤ちゃんの元気な産声を聞いた時はホッとすると同時にやりがいを感じます。授乳やオムツ交換などの育児をお母さんと一緒に練習し、日ごとに行うことができるのが増えていき、母子が笑顔で退院されていく姿を見る時にも、深い喜びを覚えます。助産師として行うどのケアも楽しく、毎日が充実しています。勇気を出して一度退職して進学し、こうして助産師になることができて本当に良かったと思っています。



6年目で念願の助産院に就職できたのは、
実習で受け持ったお母さんがつないでくれた縁のおかげです。
「お産」と「おっぱい」の2本柱を日々学んでいます。

みやした助産院 勤務(助産師) 助産研究科 助産基礎分野 2014年3月修了

天使大学大学院の2年間で一番学んで良かったと思うのは、やはり助産院での実習です。泊まり込みで学ぶ毎日がとても楽しくて、6週間が短く感じたほどでした。一人ひとりと深く関わる形が自分に合っていると実感できたので、キャリアの最後は助産院で働きたいと思うようになりました。

大学院修了後は地元の福岡に戻り、総合病院の産科病棟に5年間勤めて一度離職し、リフレッシュと英語学習を兼ねてオーストラリアで暮らしてみました。そこである日、実習先だった助産院の院長から久しぶりに連絡がおり、私が実習で一生懸命関わらせていただいたお母さんが3人目のお子さんを妊娠し、また来院されていると教えていただきました。そんな近況報告のやりとりをするうちに帰国後の就職先として誘ってくださり、2020年8月から勤務しています。こんなに早く、念願の助産院で働けるとは夢にも思いませんでした。実習で出会ったお母さんが縁をつなげてくださったと思いますし、そのお母さんが私の助産院での受け持ち産婦さん第一号になりました。

専門職大学院は決してラクではないけれど、学びが多様で充実していて、自分の核となる部分を育ててくれる2年間だったと思います。経験

豊かなさまざまな先生方の講義を受ける中で、お母さんが必要とするときにすっと手を差し伸べる、そのように寄り添う存在が助産師なのだ学び、自分の助産師像が明確になりました。私は院生時代、実習記録の作成が何しろ苦手で、辛かったときもありましたが、同級生や先生方に助けられてなんとか提出していました。振り返ってみると、楽しいことも辛いことも同じ夢を持った仲間と一緒に分かち合えた、本当にかげのない時間だったと思います。

助産院ではお母さんと赤ちゃんとそのご家族に正面から向き合えるので、一緒にがんばり、一緒に喜ぶという感覚が強いです。その方の背景や家族関係、どういう気持ちで妊娠、出産、育児を行っていくのかを知り、一緒にがんばっています。母と子と家族の笑顔を見ると、本当に心から「良かったね、嬉しいね」と喜びを共有でき、やりがいを感じます。

学ぶことばかりの日々の中、できていないと再認識したのが授乳の支援です。お母さんはおっぱいが痛かったり出なかったり、赤ちゃんもうまく吸えなかったりで、理想と現実のギャップに悩むお母さん達は多く、もっと助けられるようになりたいと思います。お産とおっぱいの2本柱をしっかりできるようにしたい。それが今の目標です。

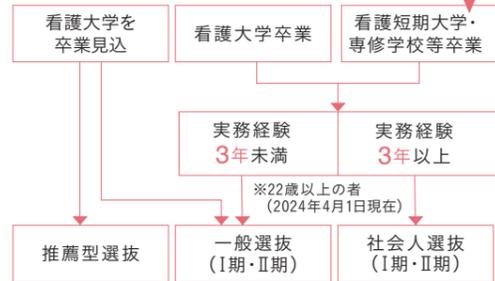
就職先 (2022・2021・2020年度)

- | | | | | | |
|---|--|---|---|---|---|
| <p>北海道</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 天使病院 ● 札幌東豊病院 ● 札幌白石産科婦人科病院 ● 札幌徳洲会病院 ● 市立札幌病院 ● JCHO北海道病院 | <ul style="list-style-type: none"> ● 手稲仁会病院 ● 北海道大学病院 ● 勤医協札幌病院 ● 旭川医科大学病院 ● 旭川厚生病院 ● 函館中央病院 | <ul style="list-style-type: none"> ● 帯広協会病院 ● 釧路赤十字病院 ● 医療法人王子総合病院 ● 砂川市立病院 | <p>関東</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 聖母病院(東京都) ● 総合母子保健センター 愛育病院(東京都) ● 筑波大学附属病院(茨城県) ● 埼玉病院(埼玉県) ● 湘南藤沢徳洲会病院(神奈川県) ● 済生会横浜市東部病院(神奈川県) | <p>九州</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高木病院(福岡県) ● 聖マリア病院(福岡県) | <p>東北</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 仙台赤十字病院(宮城県) |
|---|--|---|---|---|---|

2024年度 助産基礎分野 選抜概要

〈入学定員〉30名(女性) 〈修業年限〉2年 〈学位〉助産修士(専門職) 〈取得資格〉助産師国家試験受験資格

出願資格と受験方法 **4大卒以外の方も受験可能!**



選抜概要

選抜種別	推薦型選抜	一般選抜		社会人選抜	
		I期試験	II期試験	I期試験	II期試験
募集人員	10名	15名 I期社会人選抜含む	5名 II期社会人選抜含む	15名 I期一般選抜含む	5名 II期一般選抜含む
選抜内容	1. 小論文試験(60分) 2. 個人面接試験	1. 小論文試験(60分) 2. 学力試験(60分) [専門科目(母性看護学領域)] 3. 個人面接試験		1. 小論文試験(90分) 2. 個人面接試験	

選抜日程

選抜種別	推薦型選抜	I期(一般選抜・社会人選抜)	II期(一般選抜・社会人選抜)
出願期間	2023年8月21日(月)～9月1日(金)必着	2023年9月26日(火)～10月6日(金)必着	2024年1月9日(火)～1月12日(金)必着
選抜日	2023年9月16日(土)	2023年10月14日(土)	2024年1月20日(土)
合格発表日	2023年9月26日(火)午前10時	2023年10月20日(金)午前10時	2024年1月26日(金)午前10時

納入金 (2024年度)	種別	内訳	入学手続時	後期	年額合計
			学納金	入 学 金 ※1	150,000円
委託徴収費	学納金	授 業 料	600,000円	600,000円	1,200,000円
		施 設 設 備 費	100,000円	100,000円	200,000円
		実 験 実 習 費	50,000円	50,000円	100,000円
		小 計	900,000円	750,000円	1,650,000円
		災害傷害保険料 ※3	7,000円	—	7,000円
委託徴収費	委託徴収費	同 窓 会 費 ※1	—	50,000円	50,000円
		小 計	7,000円	50,000円	57,000円
		合 計 ※2	907,000円	800,000円	1,707,000円

※1: 初年度のみ納入です(2年次納入金は1,507,000円)。天使大学・天使女子短期大学卒業生は、入学金・同窓会費(後期納入分)を免除します。
 ※2: 学納金・委託徴収費の年額合計を一括納入することができます。 ※3: 災害傷害保険(日本看護学校協議会共済会の共済制度「WIII」)への加入を義務付けています。

助産教育分野

〈学位〉
助産修士(専門職)

※2024年度入学者募集を一時停止します

人間性豊かな助産師を育てる。その能力を備えた教育・指導者を育成する。

5年以上の臨床経験を持つ助産師を対象に、自らの助産学と助産実践を再点検し、助産教育者に必要な教育計画の立案、授業や臨床指導の理論などの学修ならびに教授・臨床指導実習を通して、教育・指導の基本的な能力を養うことを目的としています。



「教育概論」でのグループワーク

4つの特長

1 後進の助産師を教育・指導する大切な役割を果たす力を育成

助産教育分野では、自らの助産観と助産実践を再確認するとともに「助産・看護教育科目」を12科目設け、助産師教育の専門家に必要な「助産師育成のためのカリキュラムの作成」や「学習・評価の理論」、「授業・臨床指導の演習・実習」などを体系的に学び、後進の助産師を教育・指導する能力を養成します。修了生は、「助産修士(専門職)」の学位を持つ助産師教育の専門家として、臨床現場や助産師養成施設で活躍しています。

2 助産基礎分野大学院生との関わりが生きた教材に

助産基礎分野大学院生と合同の授業があり、院生学習室で日常的に接する環境にあるため、助産学生が学内でどのように学び、どのような気持ちで実習に臨むかを知ることができます。また、助産基礎分野大学院生からの質問や相談も多く、助産教育のスキルを上げる実践的な機会となります。同時に助産の教員がどのような教育観を持って学生支援を行っているかを身近で学ぶこともできます。

3 「開業助産所」での実習

開業助産所での6単位の「独立助産実習」は、従来の助産師教育にはなかった実習です。改めて女性に寄り添い、女性の身体に備わった自然な力を最大限に引き出し、助産師本来の仕事に向き合う経験を持って、後輩育成に臨みます。

4 助産修士(専門職)の学位を取得

助産師としての実務経験を十分に積んだ方に対する教育課程のため、「助産修士(専門職)」の学位を取得することができます。助産教育のスキルを向上させた上で、通常の大学院よりも半年早く現場に戻れます。

なぜ「助産教育」という学びが必要なのでしょうか

助産師として優れた技術を持っていれば良い助産師教育者でありうるでしょうか。

助産師教員は、助産師になることを志した後継者に、助産師に必要な知と技(わざ)と心を、その一人ひとりの個性に合わせて教育をすることが求められています。

そのためには、助産師として十全な実践能力を持っていることは当然ですが、さらに教育職としての学びが必要です。

卒業時に到達すべき能力を入学時から卒業時に向かって合理的に企画するカリキュラムの作成過程、教授学習の理論や評価の学び、授業の立案や臨床指導の実習、教育機関の運営・管理など、助産師教員・臨床指導者のための教育課程を計画しました。専門職助産師の役割責務として後継者の育成を積極的に行い助産師の専門的能力の伝達・習得のための支援をすることがあげられています。

臨床経験を積まれた助産師の方がたが、獲得された助産実践能力に教育能力を加えることによって助産専門職の質と量の向上に寄与することになるのではないのでしょうか。

天使学園理事・天使大学客員教授
近藤 潤子

修了生インタビュー

帯広協会病院 勤務(産科看護師長) 助産研究科 助産教育分野 2015年9月修了

システマティックな指導法を学び、自分を客観的に評価できました。

助産師として東京や帯広で20年ほど勤務し、2014年に一度休職して天使大学大学院助産研究科に入学しました。駆け抜けるように仕事をしてきたので一息つきたかったのと、新人や実習生に体系的に教える力が必要だと感じたのがきっかけです。スタンダードな助産教育を学び、授業を受けながら、自分はどういった助産師なのかと一旦見つめ直すことができたのは本当に有意義でした。それまでは助産師としての自己評価が低かったのですが、大学院に身を置くことにより、「これができていればいいんだ、間違ったことはしていなかったんだ」と自分を客観的に評価することができました。

現在は産婦人科病棟の師長として部署の管理業務を担っています。助産師の喜びは、平たく言えば「お母さんと赤ちゃんが健やかであること」

であり、スタッフ達が母子をサポートできるような環境やシステムを整えていくことが自分の役割だと思っています。その他に私は看護部の新人研修を担当していますが、研修企画・運営において教育分野での学びがとても役立っていると思います。中でもリフレクション(内省)に関しては自分なりに深く学習しました。プロフェッショナルとは、実践を振り返り、それを糧に更なる向上を目指す者だと考えているので、そのような看護職を育てていきたいと考えています。

また、同じ志を持つ仲間達と出会うこともできました。今もよく連絡を取り合っており、進学をしたことで得ることができたかけがえのない財産だと思っています。

※上記以外にも、地方自治体や病院、各種団体等の奨学金があります。各自で出身地の都道府県や市町村の教育委員会、病院等にお問い合わせください。
 ※奨学金に関する詳細は、学務課(学生担当)までお問い合わせください。Tel: 011-792-9204。